

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2015~2016年度 No.201

10月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：EMC/E YES



9月例会（日本の文化に触れる「茶道」） 9月23日(金)

2016~2017年度 主題
 国際会長：(IP) Joan Wilson (カナダ)
 「私たちの未来は、今日より始まる」
 アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事：(RD) 利根川 恵子(川越)
 「明日に向かって、今日働こう」
 北東部長：長岡 正彦(もりおか)
 「明日のために、今土台を築こう」

クラブ役員 事務局
 会長：田村 修也
 副会長：村田 榮
 河野 順子
 書記：荒井 浩元
 会計：鈴木 保江
 担当主事：荒井 浩元
 プリテン：田村・村田

9月例会データ(出席率：66.7%)
 在籍者 6名
 例会出席者 3名 メネット 2名
 ゲスト 2名
 メーキャップ 1名

今月の聖句
 神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。
 ヨハネの手紙 I 4 : 21

東京目黒クラブ 那須クラブ
 なし 10月 Happy Birthday
 なし

巻 頭 言

担当主事 荒井浩元

私が「平和」について考えるようになったのは…

先月の8月納涼例会で、戦後71年になり今こそ平和について考えようと例会の中で話がありました。昨年、私が運動あそびを指導している小学生の子どもたちと「平和」について語り合うときがありました。「みんなが思う平和ってどんなとき？」と問い掛けると、「おいしいご飯が食べられるとき!」、「お友だちとケンカしても仲直りができたとき!」、「学校で友だちと遊べるとき!」など、さまざまな意見が出ました。日ごろ私たちが当たり前と思っている何気ないことが子どもたちにとっては一番の幸せ、平和なのだと気付かされ、心を打たれました。

約10年前、私が高校生のころ、中国南京市の高校に1年間留学した経験があります。当時は、小泉首相の靖国神社参拝問題がきっかけで、政治的にも国民的にも日中関係がとて悪化していました。「あなたが日本人だから友だちになれない」と友だちとしての関係を断られたつらい経験もありました。私が日本人ということで差別を受け、日本人として情けない気持ちになったときもありますが、中国のホストファミリーや現地高校のクラスメートが心から支えてくれ、とても充実した留学生活を送ることができました。

日本人高校生の一人として、平和を願う一人として、何ができるのか、歴史を繰り返さないようにするにはどうすれば良いのか。私が「平和」について考えるようになったのは、この中国留学がきっかけでした。

私たちは日々の生活の中にある小さな幸せに気付かず、当たり前で過ぎてしまうことがあります。子どもたちの感じる「平和」を実現するには、「平和」を祈り、どのようにアクションを起こしていけばよいのかを考え、行動し続けていくことが大切なのではないでしょうか。



※写真は2016年12月に南京で開催された第6回日中韓YMCA 平和フォーラムに参加した時の写真です。

9月例会(日本の文化にふれる「茶道」) 報告

日 時：9月23日(金) 午後6時30分～

場 所：遠山宗定師匠茶室「清雪庵」宅

参加者：メン：田村会長、河野副会長、村田副会長。メネット：田村、村田。ゲスト：遠山宗定師匠、山田公平(宇都宮クラブ)、塩澤達俊(宇都宮クラブ)。

9月例会は、「日本文化にふれる」が計画されていきました。茶道体験でした。メンバーは、日本文化で育った者だけではありませんでしたが、薄々見聞きしているだけで日本文化なるものを、なかなか体験できないことと実感しました。遠山宗定師匠宅「清雪庵」にお邪魔しました。周りは田んぼに囲まれて、広い庭には茶室に入る前の外待合があり、まわりは四季折々の花(茶花)に囲まれていました。懐石はコンビニおにぎりでした。

はじめに遠山先生から、簡単なレクチャーでした。益田(孝)鈍翁(1847～1938年)という方が、「茶会」を1906年に開かれたそうです。ちなみにこの方は三井物産設立者であって財界実業家としての方が有名のようです。

茶事には、朝茶事、正午茶事、夜咄、暁の茶事等多くの茶事があるようで、懐石、濃茶、薄茶等でもてなすそうです。席入り、炭点前、懐石、中立、濃茶、薄茶のながれがあるようですが、長時間では4、5時間かかるそうです。茶道を知らない私の聞き方は断片的で申し訳なかったのですが、レクチャーからはここまで学びました。

さて、茶室へは、草履があつて草履の裏を合わせて壁と沓脱石の間に立てかけてあるのを準備して貰って(最初の準備は遠山先生の高弟、田村メネット)が行い、準備してもらった人が草履を履き、次の人のために、草履を履きやすく並べます。次の人もそのように順次行います。くぐり戸をねじりながら入り、茶室の奥には、正客が座り順次並んで座ります。今回の正客は宇都宮ワイズメンズの山田公平氏でした。彼は、幼少期にたしなみがあったようでスムーズな流れでした。床の間の掛け軸を眺め、茶花を愛でます。茶花は、シュウメイギクでした。遠山先生は、いろいろ説明しながらお点前をしてくださいましたが、すみませんが頭に入っていない。次の客はとちぎYMCA総主事の塩澤さんです。以下当該ワイズのメンバーですが、なにしろ膝を折ることが困難な人ばかり。今は、そのために立流といって立ったままでも可能だそうです。炉はまだでしたが、その周りの説

明や水や等の説明もいただきました。それらを自分の物にならない私などに説明頂いてもったいなかったと思います。器も先生はいろいろの想いでお出しくださったと思いますが、私の器はポルトガル人らしき人が描かれていましたが、それが何を意味するかは分かりませんでした。ただ、濃茶のおいしかったことは良く覚えています。

9月下旬のつるべ落としが来つつある夕暮れでしたのに、いたずらに暑かったです。次回は、炉を使ってという言葉が聞けて、継続できることを嬉



しく思った9月例会でした。遠山先生ありがとうございました。

9月役員会報告

日時：9月2日（金）18：30～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、田村メネット、塩澤とちぎYMCA総主事（宇都宮）協議事項

1. 8月（納涼）例会の反省

大変良い例会であったが、もっとユースリーダーの積極的参加を要請したい。

2. 9月例会の件

9月23日（金）午後6時30分～。日本文化に触れる。場所：遠山宗定師匠茶室「清雪庵」（那須塩原市二区町369）会費1,000円。講師への謝礼、茶菓子等で不足金がある時は、一般会計より支出する。

3. 10月役員会について

アジア学院収穫感謝祭の件があるので、前倒して9月30日（金）午後6時30分よりココス西那須野乃木店にて開催する。尚、バザーの最終打ち合わせは、10月7日（金）に田村会長宅で行う。協議内容は10月例会、11月例会、その他、ブリテンの原稿

4. 10月号ブリテンの内容について

西那須野幼稚園、アジア学院で掲載をする。巻頭言は、荒井担当主事。「ユースリーダーのつぶやき」。

5. 第20回北東部会・もりおかクラブ10周年記念例会出席の件

村田副会長が出席。お祝金10,000円、交通費補助としてクラブより40,000円支出する。

6. 東日本区への献金について

本会の実績等を見ながら献金については検討することにして、古切手の収集とプルリングの収集は、メンバーに呼び掛け実施する。

7. その他

・塩澤総主事より、とちぎYMCAの取り組みについての説明があった。

・ワイズ会計と別途会計の状況について村田会計代行より説明があった。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（43回）

田村修也

栃木県では、八等属是永文二を工事主任に任命して、工事の進捗を計りました。明治14年12月に至って、工事は半ばまで進捗しました。しかしながら、経済界の変動で諸物価が急騰したために、工事に必要な人夫の賃金も増額しなければならなくなりました。※明治10年の西南戦争は国家財政の悪化と激しいインフレを招き、大隈の積極財政から松方の激しい緊縮財政政策、さらに明治15年に起きた欧米の恐慌の影響のため、大きな経済変動に見舞われた。このため農村は大きな打撃を受け、農地を失う農民が続出し、地主制が成立して行く。また開拓使官有物払い下げ事件（あさドラ「あさがきた」で五代が苦境に立たされた）によって政府内の派閥抗争が増幅され、筆頭参議の大隈重信やその党与とみなされた進歩的官僚群が追放された。その後参議の伊藤博文や井上毅らが憲法制定事業等を担うことになりました。

また工事着工を急ぐあまりに、はじめの見積りも、余り過少であったかも知れない。とに角、準備した工事費が残り少なくなってしまいました。ここに至って、印南、矢板等の首脳者たちの苦心は、容易ならない事態に立ち至ってしまいました。更に政府の援助を求める以外に資金調達の手段はないので、関係者協議の結果、以下のような工事費増額願いを藤川県令あてに、提出することになりました。

那須東西両原飲料水路開削工事増額願

私共、客秋那須東西両原飲料水路開削の儀、出願仕、本年1月に至り、特別の詔を以て為其工事金二万二千七百七円御下渡相成候処、此工事たる最至難の儀につき、更に数回の測量を遂げ、漸く十月の初に至って、実施工事に着手、拮据尽力の末、

水源引入口より、東原中央迄、凡そ四千間の間稍や其功を竣り候につき、即ち本月十五日を以て、初めて通水を試み候処、果して目的の如く、通水相成、一同拵舞に不堪候。然るに、奈如せん、實際の工事は、当初の目論見と異り、引入口より原野に出づる間、難所の意想外に生ずる者、往々有之、加ふるに、日を逐って物価の騰貴を以てし、それが為め、彼の二万二千七百七円の工費は、此に至りて、殆ど費尽し、是より西原中央に至る、凡そ五千間余の開削は、繼て其工を興す能わず。然れども、令之を此に中止するに於ては、固より当初の目的を達せずして、私共一同遂に其利を受くる能わず、是れ今般増樋費嘆願の已むを得ざる事情に御座候。

且又、前述の目論見たる、勉めて費額の減少を要し候故、工事甚だ縮小に過ぎ、今日実地に就て之を見れば、其水量は到底両原飲用の為に供し難く、若し延て之を西原に灌ぎ、又分て之を数条と為さば、縦い涵るに至らざるも、亦滴々たる細流、以て牛馬の渴を医すうに足らず、是今日に於て、更に一層敷を広め度以所に御座候、又現今引入口に築き候、両所懸樋の如きは、一時費額の不足を懼れ、又通水の成否を試みん為めの事に止まり、若し之をして長く存しめんためには、年々の修繕に、許莫の費用を要し、翻って得失相償はざるに至るべく、是亦今日に於て、之を更め、岸腹を開削して、隧道と致し度以所に御座候。

此二者は、前途の利害を慮るに於て、必らず改築せざるを得ざる儀に有之候。依って、今六尺の堀敷を広くして、之を九尺となし、掛樋を変して、之を隧洞となし、其他勾配を緩ふし、左右の石垣を築き、而して今東原中央に止る者をして、之を西原中央に引き、其間蛇尾川、熊川を横断する埋樋、堤等、別書目論見仕様帳の如くにして、其増費額は、即ち金三万四千八百一円七十九銭三厘を要し、頗る巨額に有之候得共、然る上は、此土功たる、後来不朽に伝へ、且つ両原充分の飲用水を得、以て私共一同の要望を全ふする儀に御座候。

然り而して、向に私共の願に対し御下渡相成候、二万二千七百七円なる者は、固より当時の目論見に抛り此土功を成就すべき工費なるを以て、縦い今日其不足を生ずうに至るも、各用水使用者の自費を以て、其業を継ぐべきは、尤ま当然の事に候へ共、如奈せん、各自開荒の事業たる、創始日尚浅く、是より数年の間、幾多の資金を要する秋にして、他の水利に向つて、巨額の工費を支出すべき余裕無之、而して、今之を棄てて、彼を為す

も、其利の歸する処を見ざる儀に有之、一同殆んど興廢の間に苦み候間、何卒特別の御詮議を以て、右増費金参万四千八百一円七十九銭三厘、更に御下渡被成被下度、此段図面並に目論見仕様帳を添へ奉嘆願候以上。

明治十四年十二月

那須開墾社惣代	印南 文作
	矢板 武
	田代荒次郎
那須東原開墾社惣代	西山真太郎
東肇耕社惣代	田上 貞質
西肇耕社惣代	原口 祐之
栃木県令 藤川 為親殿	

(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
理事長・園長 福本光夫

私は、新聞は後ろから読む事が多いです。これは子ども時代、新聞はテレビ欄しか見てなかった頃からの習慣です。

今日(2016/9/15)の朝日新聞の37面に「福島 甲状腺がん135人に」という記事がありました。東京電力の原子力発電所事故当時18歳以下の子どもの甲状腺検査結果を福島県が発表し、この4月から6月に甲状腺がんが4人増えたという内容です。大人都合で被曝した何の罪も無い福島の子どもの命に関する事が、見過ごされるであろう37面に、しかもたった89文字で報告されています。こんなことで良いのでしょうか。ちなみに、その下には「五体不満足」の著者である「作家の乙武洋匡氏が離婚」という記事は、約2倍弱の153文字が割れています。

原発と甲状腺がんの因果関係については、専門家でも議論の分かれるところですが、私は前園長が言っていた「子どもを第一に考える」と、念のために福島の中程度の汚染があるこの地域の4歳11ヶ月以上の子どもたちも、定期的に検査をした方が良いという考えを持っています。甲状腺検診をしなくても良いのであれば、何故福島県、那須町、日光市で、来年度は塩谷町でも行われるのでしょうか。国もマスコミも、原発事故による環境汚染の影響を受けながら生活している子どもたち1人1人の命を大切にしたいです。親の気持ちを受け止めて欲しいです。このままでは、風化しかねません。3.11から5年半経った今、

このようなことを思っています。(しらゆり
2016.9.16より)

学校法人 アジア学院だより

学校法人 アジア学院

校長 荒川 朋子

「Go to the people - 人々の中に入っていけ」

アジア学院の教室には次の短い詩が貼ってある。

Go to the people	人々の中へ行き
Live with them	人々の中に住み
Love them	人々を愛し
Learn from them	人々から学びなさい
Start with what they know	人々が知っていることから始め
Build on what they have	人々が持っているものの上に築くのだ
But of the best leaders	しかし、最も優れた指導者が
When the task is accomplished	仕事をしたときは
The work is done	その仕事が終わったときに
People all remark	人々はこう言う
We have done it ourselves	「我々がやったのだ」と

この詩は、「参加型農村調査法」(途上国の農村などにおいて、特に社会的弱者に農村開発事業に参加してもらう方法)の授業を長年持ってくださっていた日本結核研究所所長の石川信克先生から教えていただいたものである。アジア学院の草の根の指導者が農村の人々と働く際の理想とすべき姿勢だと思い教室の壁に貼っている。

先日知人から、その石川信克先生が書かれた「Go to the People」の源流を訪ねて」という文章をたまたま教えていただき、とても興味をそそられ一気に読んだ。というのも、この詩の作者は Dr. James Yen という中国人で、フィリピンの IIRR (国際農村復興学院) を創設した人であることは知っていたが、それ以上は全く知らなかったからだ。

石川氏によれば Dr. James Yen の本名は晏陽初 (イェン ヤン チュウ 1890-1990) といい、この人は 1920 年代の中国で毛沢東の政治革命と並行して、様々な農村建設の実験を行っていた人だという。特に、人々が貧困や病気・労苦から解放さ

れるためには「人々の教育こそが中心」、また「人々の持っている潜在力への信頼と機会の提供こそが重要」として、「裸足の医者 の原型を含めた農村のモデル開発をしていた」とある。しかしやがて晏は反革命的分子として批判され、1949 年にフィリピンに活動の拠点を移す。そしてフィリピン・マニラ郊外にて農村開発に携わる人材育成機関、IIRR (国際農村復興学院) を創設する。石川氏は IIRR まで訪ねていき、その資料館に上述とほぼ同じ詩が「農村復興の 9 か条」という題で掲げられているのを見つける。しかし石川氏が重要だと思っている後半部分(「しかし、最も優れた指導者が仕事をしたときは、その仕事が終わったときに人々はこう言う。「我々がやったのだ」と)がない。石川氏はこの後半部分がいつ、どのようにして、そしてなぜ加わったのかを訪ねるべき、さらに旅を続ける。

調査を続けると、石川氏は晏がある時期に老子についてよく語っていたことがあったという事実を知り、次に老子の思想を訪ねる。するとついに老子第 17 章後半部分に似ている部分があることを発見する。それが以下の文である。

大上下知有之。其次親而譽。其次畏之。其次侮之。信不足焉。有不信焉。悠兮其貴言。功成事遂。百姓皆謂我自然。(最高の指導者は人民はその存在を知っているだけである。その次の支配者は人民は親しんで誉めたたえる。その次の支配者は、人民は畏れる。その次の支配者は、人民は馬鹿にする。支配者に誠実さが足らなければ、人民から信用されないものだ。(後半) 最上のリーダーは、治めることに成功したら、あとは、退いて静かにしている。すると下の人たちは、その幸せな暮らしを『おれたちが自分で作り上げたんだ』と思う。』

この老子の思想が果たして本当に晏に影響を与えて、文頭の詩の誕生につながったのかどうか、最終的に石川氏は確証を得られなかったが、最後にこのように結んでいる。「彼が、社会の最も底辺の無学な農民の中に、社会を変革する主体となる潜在力を発見して、そのために農村で働く指導者を教育しようとした経緯からみると、2千年以上受け継がれてきた古典老子の文の中に、より積極的な解釈をほどこし、その言葉を借りて彼の思想を表わそうとしたとも考えられる。」日頃親しんでいる詩にある、私たちが大切にしている農村開発の原型が、実は2千年以上遡って老子に行きつ、悠久の時を経て受け継がれて現代にも生きている。とてもわくわくし、嬉しくなった。

東京目黒クラブ9月例会に参加して

副会長 村田 榮

9月14日(水)午後1時30分から東京YMCA南センターで開催。村野会長の友人西川さんを迎えて東京都庁のボランティアガイドとしての都庁の魅力をお話いただいた。都庁への見学は無料で、富士山から高尾山が展望できる360度の展望台、202mの高さがありエレベーターで一気に上がることが出来る事や、安くておいしい2か所のレストラン、新人画家の発掘のための美術展示等々魅力いっぱいの場所であるとの説明をいただき、今までなんとなく見ていた東京都庁への親しみがわき一度見学をしたいと思った。例会の中で時間をいただき、那須ワイズのシイタケ昆布の販売をしました。10月8日(土)の東新部大会のホストとしてのお働きがあり、その後の活動については9月の事務例会で話し合われるとのことでした。先月の例会に引き続いてメンバー増強は東京目黒クラブだけの問題でなく、那須クラブも然り、緊急の課題であると感じました。

第20回北東部会・もりおかクラブ10周年記念例会に参加して

副会長 村田 榮

9月17日(土)午後1時からメトロポリタンもりおかにて開催された、第20回北東部会・もりおかクラブ10周年記念例会に那須クラブを代表して参加してきました。ユースリーダーがのぼり旗を持って、盛岡駅より会場まで案内をしてくださり迷うことなく会場に到着。参加者は、東日本区理事、2つのDBCクラブをはじめ、北東部の各クラブ以外に交流のあるクラブより約90名の参加者があった。

以下に特筆すべきことのみ記載しますと、部会では、直前部長の中川メンがエルマーククロウ賞の伝達式が行われて披露された。デンマークよりのSTEP交換留学生の自己紹介、第20回東日本区大会のアピールがあった。記念撮影後、10周年記念例会に移り、開会点鐘で始まり、ゲストスピーカーの「渚亭たろう庵」の社長松本勇毅氏の「あれから5年、あの日を忘れない」と題して、岩手県田老町での津波災害のビデオを通じて5年前の状況を伝えてくださいました。田老町は、高い防波堤に囲まれ津波に強い町として他の自治団体からの視察もあった街でありながら、5年前には大きな津波により町がのみ込まれたとのこと

でした。渚亭たろう庵も津波の被害を受け、高台に再建されたとのことでした。又、日本YMCA研究所所長の光永尚生ワイズ(三島クラブ)より、熊本地震に対するYMCAの取り組みについて報告も聞くことが出来ました。

今後の予定

・10月役員会

日時：9月30日(金)午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：10月例会、11月例会、10月号ブリテンの発行等。

日時：10月7日(金)午後6時00分～

場所：田村会長宅

内容：アジア学院バザーの準備

・10月例会

日時：10月8日(土)・9日(日)

場所：アジア学院

内容：アジア学院収穫感謝祭への出店

・11月役員会

日時：11月4日(金)午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：11月例会、12月クリスマス例会、11月号ブリテンの発行等。

・11月(赤松林植樹)例会

日時：11月12日(土)午前10時集合～

場所：那須街道赤松林駐車場

・北東部第2回評議会

日時：11月26日(土)

場所：仙台

YMCA報告

【第29回ユースボランティア・リーダーズフォーラムに参加してきました!】



9月9日(金)～9月11日(日)に東京YMCA山中湖センターにて第29回ユースボランティア

ア・リーダーズフォーラムが開催されました。今年は「今、ユースリーダーに求められていること」をテーマに東日本のユースリーダー32名が集まり、基調講演やプログラムに参加し、子どもたちとの関わり方やグループワークなどについて学びを深めていきました。とちぎYMCAからは4名のリーダーが参加しました。今回参加したリーダーたちが、今回の経験が糧となり、YMCAでのボランティア活動が実り多きものとなりますように願っております。この度は貴重な機会を頂きどうもありがとうございます。

【「広がれ、子ども食堂の輪！」全国ツアーin 栃木】

11月16日(水)、「広がれ、子ども食堂の輪！」全国ツアーin 栃木が開催されることになりました。子ども食堂って何？子ども食堂について改めて知りたい、どんな関わり方が出来るのか、自分たちに出来る事は何か、など様々な視点から、皆様と一緒に考えてみたいと思います。また、「子どもの体験格差」をテーマとした分科会では、総主事の塩澤がコーディネートとして参加し、荒井

も会場の運営にあたります。是非お越しただければと思います。皆様のご参加をお待ちしております。



<開催概要>

日時：11月16日(水) 13:00～17:00
 場所：とちぎ青少年センター 多目的ホール
 定員：180名(参加費無料)
 主催：「広がれ、子ども食堂の輪！」全国ツアー in 栃木 実行委員会

「広がれ、子ども食堂の輪！」全国ツアー実行委員会

事務局：一般社団法人栃木県若年者支援機構

協賛：宇都宮中央ライオンズクラブ

申込み：申込みご希望の方は荒井までご連絡ください。

【とちぎYMCA・那須YMCAの10月の予定】

- ・10/1(土) サタデークラブ@長峰公園
 - ・10/8(土)～10/10(月) 第19回日本YMCA大会@東山荘
- ※とちぎYでは総主事や鷹箸理事長、荒井をはじめ、リーダー12名、Y会員、職員合計19名が

参加します。

- ・10/8(土)～10/10(月) 全国YMCAリーダー研修会@余島キャンプ場
- ※とちぎYでは2名のリーダーが参加します。
- ・10/8(土) さくらんぼ幼稚園運動会@宇都宮市立戸祭小
- ・10/15(土) サタデークラブ@馬頭農村塾(お芋掘り)
- ・10/16(日) Yキッズ@荒牧りんご園(りんご狩り)
- ・10/22(土) サタデークラブ@馬頭農村塾(お芋掘り)
- ・10/26(水) 日本YMCA同盟第35回国際協力委員会@同盟 ※荒井が出席
- ・10/30(日) ウィンタープログラムキックオフリーダートレーニング@宇都宮YMCA

ユースリーダーのつぶやきコーナー

【サンリーダー 芳賀 大輝 国際医療福祉大学1年】

【自己紹介】

4月から那須YMCAでリーダーとして活動しているサン(芳賀大輝)です。体を動かすことや漫画を読むことが趣味で、今後はギターを趣味とできるように、頑張っております。日本YMCA大会



では、県外の都市の違うリーダーと沢山触れ合い、良い刺激を受け、今後の活動に活かしていきたいと考えて

います。

【YMCAのユースエンパワーメントとは？】

若い力だからこそ、子どもたちと一緒に遊ぶことや考えることなど、子どもたちの立場に立って物事を行えること。

【自分にとって、YMCAを一言で表すと？】

将来につながる心地よい場所

編集後記

・10月号のブリテン大変遅れて申し訳ありません。201号ブリテンを発行いたします。

・10月に入ってから気候が安定せず、半袖であったり、長袖を着込んだりで体調管理が難しいです。那須も紅葉の見ごろの季節となりました。